



あなたのまちのコミュニティ活動情報誌

コミュニティ しずおか

2024

7月

No.175



地域住民も参加 思い出に残る運動会を！

向田小学校閉校事業実行委員会（裾野市）

▼今年度で36年間の歴史に幕を降ろす裾野市立向田小学校で「最後の大運動会＆向田祭」が開催された。運動会を地域全体で盛り上げようと“地域の人vs向田小児童”の綱引きを計画。4月下旬から参加者募集ののぼりを地域内に50本立てて勧誘し、中学生から70代まで約90人が参加した。

▼「希望を持って新しい小学校に通ってほしい。応援の意味を込めて参加しました」と近所に住む上永さん。「予想以上の参加があって嬉しい」と小林実行委員長。いつもより多くの歓声と拍手をもらい運動会は終了した。来年3月の閉校式に向け、地域の方の協力を得ながらみんなの記憶に残る記念事業を実施していく。

◇実行委員長：小林信之さん

【情報提供・志田忠弘】

Topics トピックス

地域訪問記 P02

自然の恵みを生かし、楽しむ、おちばの里づくり(潮西市)

地域訪問記 P06

ゆるく楽しく残っています！今年で18年目の「お母さん劇場」(袋井市)



のじぎょ・りえ

ニシキ



左:おちばの里親水公園で開催した子どもの日イベントの様子

右上:今川こども自然クラブで今川の生物調査

右下:親子体験教室で浜名湖で生物観察

「自然の恵みを生かし、楽しむ、おちばの里づくり」 ～多彩な活動の源について～

湖西市

湖西フロンティア倶楽部

〓 レポーター峰野です! //



天浜線の知波田駅から車で約6分。浜名湖の西側に連なる湖西連峰が背後に広がる「おちばの里親水公園」に到着。ここを拠点に子どもたちに自然との触れ合いを提供している湖西フロンティア倶楽部。副会長の鈴木廣次さん、奥様で事務局の鈴木シヅエさん、事務局長の片山愛司さんに、年間60回もの多彩な活動の源について伺ってきました。

会の立ち上げ

今から32年前、青年団活動の停滞とともに地域の活

力の低下を危惧した当時の湖西市教育委員会の社会教育課から「青少年リーダーを育成し、地域を元気にしたい」という声が青年団OBである鈴木さんや片山さんらの耳に届いた。そこで青年団OBが主体となり、地域の活性化を目指して1992年4月に湖西フロンティア倶楽部を立ち上げました。現在会員39人（男性25人、女性14人）、平均年齢60歳がほぼ毎週末に活動を行っています。

現在の活動状況

コアメンバーは16人。主な活動は、親水公園の管理やイベントの開催、周辺の森の整備。子どもや親子を対象とした自然と親しむ事業「湖西親子体験教室」「今川こ

ども自然クラブ」「湖西こどもエコクラブ」の実施。中・高生を対象にした「青少年指導者の育成研修会」。その他に、知波田地区内の「大知波桜を守る会」や「夢くらぶ21」地元企業との連携・協働も行っています。

気になる財源は、5000円の年会費の他に参加者からの体験料や企業からの寄付、市から委託事業。ドングリや間伐材等自然の恵みやペットボトルの再利用など「あるもの」を使って開催しているのでお金はそんなに掛からないとのこと。

多彩な活動の源

多くの活動を32年にわたり実施してきた秘訣は「自分たちが楽しんで活動をしていること」と鈴木副会長。「主人がフロンティアに行くとなかなか帰ってこないの、そんなに楽しいのかと私も入会しました」と奥様のシヅエさんが笑います。

「参加の強制はしない」「自分たちのやりたい事をやる」と皆さん口を揃えます。新しいアイデアは活動の最中やお昼休憩の談笑から「次はあれをやりたい、こうしたい」と案が出てくるそう。「一緒にご飯を食べるって大事ですね」とシヅエさん。

大変だったら修正するといった柔軟さを持ち、決して無理をしないのも大事だと語ります。当初は、全員が素人集団で手探り状態だったという。長年活動続けるうちに、少ないスタッフでも対応できるノウハウを身に付け、現在は、効率的にいくつかの事業を同日に開催できるようになりました。「一石何鳥かを狙っているところはあります」と片山さん。



育てた稲を脱穀する子どもたち。
天日干した後お釜で米の炊き方を学んで新米をいただく

今後の展開は

会員の高齢化に伴い、今後は年齢と体力相応の活動にしていこう方針とのこと。「後継者に全ての活動を引き継い



「森の遊び場」に作った遊具の一つ 丸太ブランコ

でほしいとは思っていません。その時にできる形で活動をすればいい」と片山さんは語ります。活動が上手くいっているのは、会員がやりたいこと、夢を自由に語り合うコミュニケーションの良さがポイントだと納得がいきました。

また、これまでの実績が社会的にも家庭的にも認められ、皆さんは楽しくて楽しくて仕方がないのだと思います。湖西フロンティア倶楽部の皆さんは夢追いクラブの集団だと感じた取材でした。



左から鈴木シヅエさん、廣次さん、片山さん



ホームページ

◇代表：飯田康仁さん
(問合せ・E-mail:kosaifront@yahoo.co.jp)
【情報提供・片山愛司】



レポート：峰野 勇 編集委員

伊豆の国市

駄菓子を通じた居場所づくり

だがしや文庫
じんだいこ



異年齢の子どもたちが楽しんでいる店内

▼令和5年3月、伊豆長岡地区に絵本の貸し出しや読み聞かせ、定期的にお話会を開催する駄菓子屋さんが開店した。「だがしや文庫じんだいこ」の代表小池さんは、長年にわたり子育て支援活動に携わる中で「赤ちゃんからシニアまでが交流できる場を作りたい」という思いから駄菓子を利用した地域の居場所を立ち上げた。

▼元うどん屋さんを仲間と共に改装。壁に本棚に設置し、絵本や児童書を並べ、その横で駄菓子を販売。幼児連れのママや散歩の途中でコーヒーを飲み立ち寄りシニア。おやつ代を握りやって来る小学生たちは、頭を使いながら駄菓子を買ったあと、小上がりで食べながら読書やゲームを楽しんでいる。

▼小学生と子育てママ、シニアの多世代が交わり、楽しく過ごす光景は、まるで地域の家族のような雰囲気を出している。

※毎週、木、金、土曜日の10時から17時まで開店。気軽にお寄りください。

◇代表：小池陽子さん（問合せ・055-949-5585）【情報提供・柴田三智子】

函南町

「動ける時こそ花」その力を地域に

間宮老人クラブ

▼函南町間宮地区（約2330世帯）にある「間宮老人クラブ」は、会員67人（男31人、女36人）平均年齢75歳の団体。健康保持や孤独防止のため、生き生きとした生活を送る活動を進めるとともに、地区と共催で納涼祭や各種祭典を継承し、地域の活性化に寄与している。

▼月1回の定例会、俳句会、月2～4回のグラウンドゴルフ、年6回の神社清掃など活発に活動している。また、区内の保育園との交流は約30年に及び、子どもたちと一緒に園の行事を盛り上げている。特に「給食会」では、園児の小さな椅子に座るのに四苦八苦する姿に皆で大爆笑。普段無口な会員が園児と触れ合い、別人のように話す姿に、交流の素晴らしさを実感。

▼今年で発足62年目を迎えるが、近年は会員の高齢化等により参加者が少なくなっている。活動開催時は、「動ける時こそ花」と必ず声を掛け合って2人以上で参加するよう工夫をしている。

◇代表：今井貞治さん（問合せ・055-978-7703）

【情報提供・太田輝彦】



月2～4回開催するグラウンドゴルフ

静岡市

私の あなたの みんなの 居場所 草薙テラス

草薙テラス



多世代ランチでおむすびづくりを教わる小学生

▼清水区の有度地区で活動する「草薙テラス」は、高齢者や子どもの居場所づくりに励む団体。住民に福祉サービスのアンケートをとったことがきっかけで令和2年に発足した。会員13人（男2人、女11人）が、誰でも寄れて相談できる居場所“テラス”で、草薙地区を明るく“照らす”活動をしている。

▼主な活動は2つ。①月4回、4か所の自治会を巡回し、子育てママや高齢者がおしゃべりや工作を楽しんだり、日常の困りごとが相談できる「草薙テラス」の開催。②年7回、学校の給食のない日に行う「子どもランチ」の提供。また、年1回夏休みに多世代ランチを開催。昨年は、地域の高齢者からおむすびの作り方を教えてもらった。

▼地域に名前が知れ渡り、地区や学校の理解を得て活動がしやすくなってきたが、テラス参加者の固定化や開催場所の制約から受入れに限界のある「子どもランチ」を今後どのようにしていくか思案中である。

◇代表：戸塚恵美子さん（問合せ・054-344-1102）



磐田市

笑顔の生まれる場「豊浜ふくの市」

豊浜地域づくり
協議会福祉部会



購入品の袋詰めをするボランティアの皆さん

▼毎週水曜日、10:00から11:30にJA豊浜プラザで農産物特売所「豊浜ふくの市」が開かれる。地区のスーパー閉店に伴い、買い物弱者をどう支援するかを地域で話し合い、JAへ出張販売を依頼して2013年5月から始まった。

▼開催にあたっては、住民から募集したボランティアと福祉部会員、協議会役員が、整理券の配布や購入商品の袋詰めなどを行い、スムーズに買い物ができる様にサポートをしている。また、買い物客同士の交流の機会をつくろうと休憩スペースを設置した。

▼「1時間前から来ている方、買い物後のおしゃべりを楽しむ方、笑顔と笑顔のコミュニケーションが生まれているこの場を続けていかなければ」と副部会長の加藤さん。11年目を迎え、当初は元気に歩いて来ていたが、杖や乳母車を押して来るようになった人もいる。この先も、ふくの市に来れるように移動の支援についても考えていきたい。

◇副部会長：加藤博信さん（問合せ・0538-55-4793）

【情報提供・安部詠司】

浜松市

新川を憩いの場へ かわまちづくり

新川かわまちづくり
「カモ・カモンの会」

▼令和3年、浜松駅の南から馬込川に流れ込む新川を憩いの場に生まれ変え、まちの活性化につなげようと国土交通省が進める“かわまちづくり”に取り組むカモ・カモンの会が発足した。10代～70代の有志25人が、毎月第1、3日曜日の清掃活動やイベントを開催している。

▼きっかけは、川に来る鳥を見ていた中山代表が川底のゴミを見て「何かできないか」と思ったこと。市の「川の里親制度」を知り、仲間5人に声を掛け活動が始まった。地域の方やボランティアの協力も得ながら清掃を継続し「新川がきれいになった」という声が聞かれるようになった。

▼新川に関心をもってもらおうと、江西中学校の生徒によるアピール画の制作や、歴史を知る散策、かわまちづくりを考えるワークショップ等を開催してきた。「地域全体で盛上げるため、地域の多くの皆さんの理解を得て活動したい」と中山代表。

※7/7の川の日には水辺で乾杯し音楽を楽しむイベントを開催する。

◇代表：中山和子さん（問合せ・080-5127-0964）【情報提供・中野智晴】



ブログ

最近は、空き缶やタバコの吸い殻が多い

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）



No.	市町	活動名	主催者	趣旨・目的	情報通信員
1	伊東市	“ボッチャ”は楽しくて奥が深い！ 東奔西走の普及活動！ その先は？	（一社）伊豆高原観光オフィス	地域活性化を目指し、観光を中心に地域の様々な事業に取り組む	佐藤みつ子
2	長泉町	町の面白い人と「やってみたい」を 町民自らはじめていく	下土狩コアワーキングス ベース	イベント企画から実施までを行う町内の「面白い人」を発掘し人材育成する	希代和也
3	静岡市	子どもたちと一緒に遊びで学ぶ	長田東社会福祉協議会 「ボランティア部」	①未来の地域を育んでいく子供たちと一緒に紡いでいく ②クラブ対象項目の経験者が小学校のクラブ授業に参加	吉田敏明
4	川根本町	徳山お花見ウォーク	かねふるさと応援隊 KiTeGo	徳山の文化財や歴史的なスポットを案内し、徳山の知られざる魅力を紹介する	植田直美
5	掛川市	佐束くるりんウォーク（高天神城址跡 巡り）	佐束地区まちづくり協議会	地区住民皆で協力し、明るく豊かで活力あふれる地区を目指す	安藤ミエ
6	菊川市	こども・わかもの参画ファシリテーション講座	NPO法人わかものまちなち	若者のまちづくり参画の推進	鈴木貴司

地域訪問記

団体の継続に着目し紹介します。



いきいき楽しく
演じています



劇中に、得意技を
披露する6年生



左から
港さん、永田さん
高橋さん、岡本さん

ゆるく楽しく続いています!今年で18年目の「お母さん劇場」

浅羽南小ボランティア お母さん劇場 (袋井市)

袋井市浅羽地域を中心に活動する「お母さん劇場」は昔話などにアレンジを加えた劇を披露しています。演じているのは、毎日を忙しく過ごすお母さん8人。脚本、演出、小道具、俳優、ナレーション、全て自前で準備しています。

代表の港さん、永田さん、高橋さん、岡本さんの4人に活動継続のポイントを中心に聞きました。

お母さん劇場のはじまり

今から30年前、港さんと高橋さんは浅羽南小学校で読み聞かせの活動に参加していました。活動が続けるうちに「子どもたちが喜んでくれる事をもっとやりたい」という思いが生まれます。先生に相談したところ、年1回、昼休みの時間に劇を開催できることとなりました。これがお母さん劇場の始まりです。

近年は、最後の思い出づくりの一環で6年生数名も参加。ルービックキューブやリフティングなど子どもの得意技を披露する見せ場をつくり、先生たちにも出演の願いをし、学校を巻き込んだ劇の形になっていきました。お母さんたちも毎年どんな劇になるのか楽しみにしています。今では、小学校での公演のほかに、浅羽東コミュニティセンター祭り、クリスマス会、幼保園の節分祭と年4回程度披露しています。

少なく、練習は多くて3回!セリフはカンペを使ってOK!インタビュー中も「ゆるくやっています」と皆さんの笑顔が絶えません。脚本の調整や演出、小道具づくりも、みんなでアイデアを出し合いながら進めているそう。

新しい人にもつなげていきたい

今後について聞いてみると「健康に気を付けてずっと出演したい」と永田さん、「できる限り続けたい」と港さん。そして皆さん「仲間を増やしたい」と声を揃えます。これまで披露した作品は20以上ありますが、人数が足りず再演できない作品もあり、もう少し仲間が増えることを望んでいます。「見てくれた子どもたちが、いつか仲間になってくれると嬉しい」と高橋さん。「素敵な仲間に入れてもらった。仲間を増やしてこの活動をずっとつなげたい」と岡本さん。

インタビューを終えて

取材にあたり、仕事や家庭を持つお母さん方がどのようにして長年活動されてきたのかが一番気になっていました。

“楽しみながらゆるく”、“意見を出し合える雰囲気”、“同じ思いの仲間”この3つがポイントとお聞きし納得しました。素敵な活動が新しい人にも引き継がれ、これからも長く楽しく続いていくことを願っています。

18年目、活動継続のポイント

- ①楽しみながら、ゆるくやっていること
- ②みんなで話し、意見を出し合える雰囲気があること
- ③「子どもたちに楽しんでほしい」という同じ思いで集まっていること

この3つが継続のポイントだと語ります。さらに1年を通して同じ演目を披露しているので、準備やセリフ覚えの負担が



〓 レポーター矢野です! //

◇代表: 港 京子さん
【情報提供・新海智美】

レポート: 矢野さちこ 編集委員

特別レポート 能登半島地震の支援に行ってます

静岡県コミュニティづくり推進協議会推進専門委員
NPO法人くらしまち継承機構理事長 伊藤光造 氏

5/11～14にかけて私たちが3度目の支援に入った珠洲市は、地震直後と景色が全然変わっていませんでした。まだ余震もあり、梅雨・台風の時期を控え現地の方々の心労は募るばかりではないでしょうか。

能登半島地震の特徴は、広範な建物(特に住宅)被害ならびに地域によって津波、崖崩れ、液状化、海岸隆起などの多様な災害が発生したことです。そしてもう一つ、静岡県にとっても大きな注目点になる特徴は“半島災害”であるということです。救急対策がうまくいってないことや復旧活動が遅々としていることは、いずれも半島災害に起因しています。つまり、能登半島の場合、全国から駆け付ける行政等職員やボランティアの滞在拠点は主に金沢市周辺で、そこから活動場所までの移動に3、4時間もかかる状況です。結果、現地での活動時間が1、2時間程度となり、当然仕事もはかどらず、受け入れ人数も限られてるということなのです。



2024年5月11日 珠洲市蛸島地区

さらに、日本の本州を180度回転させてみると、能登半島と富山湾は、伊豆半島と駿河湾に極似していることにお気づきでしょうか？ しかも伊豆半島は、能登半島より山が高く傾斜も急峻です。能登半島には背骨にあたる能越自動車道・能登里山道路が整備されていますが、伊豆縦貫道はまだまだ整備中です。もし同様の地震に襲われたら、能登半島以上の悲惨な状況となることも考えられます。そうなると、非常に大切なのが、それぞれの地域の“自立”なのです。地震直後に地区が孤立状態となり、それが長引く可能性があるとなると、救急・救命、水・食料の確保、応急的な瓦礫撤去、避難場所の設営等々、それぞれの地区で住民自らが行わなくてはなりません。まさに鍵となるのはコミュニティなのです。



住宅相談(珠洲市飯塚地区)

今回、珠洲市の他、数か所の避難所を訪問しました。それぞれの責任者は、ご自身も被災者である地区の区長さんでしたが、地域の方々への配慮が行き届いていて感銘を受けました。避難所も住民同士の協力で平穏かつ円滑に運営されていました。

静岡県も“明日は我が身”です。最近では能登半島地震に関する報道も減ってきたように感じますが、静岡県民の皆さんは、是非、他人事でないという視点をもって、それぞれの方ができる支援をして、関心を持ち続けていただきたいと思います。



新茶、静岡おでんを提供(珠洲市寺家地区集会所)



常務のつ・ぶ・や・き

今年のGWの賑わいを見ると完全にコロナ前に戻ったようだが、人出とともに増えているのが身近な犯罪だ。昨年の県内の刑法犯認知件数は、21年振りに前年比で増加に転じた。新型コロナの規制緩和による人出の増加に伴い、自転車盗などの窃盗犯が増えたためだという。SNSを悪用した特殊詐欺の被害も後を絶たず、気の緩みもあるのかも知れない。

静岡県が平成16年4月に「防犯まちづくり条例」を施行してから20年。県民の防犯意識の高まりや青色パトロールをはじめとした防犯ボランティアの方々の尽力により、年間6万件を超えていた認知件数は4分の1以下に激減したが、小さな犯罪を見過ごせば、割れ窓理論に繋がる。

地域の皆さんの見守り合いの目が行き届いた安全で安心な我がまちを維持するためには、ここが踏ん張りどころだろう。

コミン一家

のりづき・りえ



地域情報をお寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856

静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階

【TEL】054-251-3585

【FAX】054-250-8681

【URL】<http://www.sizcom.jp>

【E-mail】sizucom0829@po.across.or.jp



地域活動に関心のある方へ!

募集します

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

★出張コミカレ&コミカレ開催します!

コミュニティづくりの大切さ、地域での話し合いの進め方などコミュニティ活動を進める上で必要なスキルや知識を学ぶ講座です。静岡市の会場まで足を運ぶのは大変! そんな皆様に向けて、本年度は函南町と浜松市で出張コミカレを開催します。詳細につきましては、随時 HP 等でご案内します。※なお、本年度の出張コミカレは、対象者限定です。HP をご覧ください。

R6年度 出張コミカレin かなみ

7/6(土)	10:00	【開講式】開講挨拶	函南町役場 2階 大会議室 ※駐車場あり
	10:10~12:10	【講義】「持続可能なコミュニティづくりとは」 講師:伊藤光造 氏	
	13:00~15:00	【講義】「老若男女が担うコミュニティ」 講師:池田恵子 氏	
7/20(土)	10:00~15:30	【講義】「地域づくりの土台作りという視点」 講師:小田圭介 氏	
	~15:40	【ワーク】...引き続き	
		【閉講式】閉講挨拶・修了証書授与	

R6年度 出張コミカレin はままつ

7/30(火)	10:00~	【開講式】開講挨拶	7/30 第1, 2研修室 7/31 ギャラリー はまこら (浜松市市民協働センター)
	10:10~15:30	【講義】「地域を知る・地域に混じる」 【ワーク】「地域課題のアイデア出し」 講師:飯倉清太 氏	
	10:00~16:15	【ワーク】...引き続き	
7/31(水)	16:15~16:30	話し合い、まとめ、表現する。その過程を楽しむ	
		飯倉清太 氏	
		【閉講式】閉講挨拶・修了証書授与	

R6年度 コミュニティカレッジ 講義内容については後日確定します。

9/21(土)	講義 平田 厚 氏 (福祉文化実践研究所所長)	講義 渡村マイ 氏 (一社SACLABO代表理事)	会場 静岡県総合 社会福祉会館
10/5(土)	講義 望月誠一郎 氏 (地域デザイン研究所所長)	講義 小田圭介 氏 (裾野市東地区何にもない合宿実行委員長)	
10月中	現地訪問研修 (県内で先進的な活動団体を訪問します)		
11/9(土)	演習 鈴木まり子 氏 (有限会社タイキなくらし ファシリテーション事業部)		

サマージャンボ

7億円

1等前後賞合わせて7億円
1等5億円、前後賞各1億円

サマージャンボ

5千万円

当せんの
チャンス広がる!

この宝くじの
収益金は、
市町村の明るく
住みよい
まちづくり
に使われます。

1等前後賞合わせて
5,000万円
1等3,000万円、
前後賞各1,000万円

PCスマホで
ネット購入!

宝くじ公式サイト
<https://www.takarakuji-official.jp/>

7月8日(月)同時発売

各1枚 300円

●発売期間 7月8日(月)~8月8日(木)
●抽せん日 8月23日(金) 2024年市町村振興宝くじ 一般財団法人 全国市町村振興協会